

東京外国語大学

国際日本学部

この学部で学ぶこと

日本人学生と世界各地からの留学生が一堂に会し、日本の未来を考える。講義は日本語と英語で行われ、日本人学生と外国人学生が共に学び、課題解決に取り組む。



大学情報

URL <http://www.tufs.ac.jp/>
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 高大連携支援室
TEL 042-330-5158



言語文化学部

国際社会学部

国際日本学部

将来は報道関係に進みたい

世界のニュースを日本に伝え、また日本のことを世界に伝えたい。将来は報道関係に進みたいと考えている自分にとって国際日本学部、そして「多文化コラボレーション1」はうってつけの学部、講義です。

富山 瑛史くん

国際日本学部2年／福岡県立 久留米高校卒

国際日本学部なら多国籍の学生と学べる

国際日本学部ではアジアや欧米、南米などさまざまな国の留学生と共に学びます。出身国によって考え方も異なり新鮮。この講義では、言語をツールとして番組のプランを練り上げるので楽しいですね。

永田 史佳さん

国際日本学部2年
神奈川県 私立 湘南白百合学園高校卒

History

大学の歩み

明治から続く国際人育成の伝統

大学の源は明治6年に創立された東京外国語学校まで遡ることができます。明治20年、同校は廃校となりましたが、明治30年に現在の「橋」大学の前身である高等商業学校の附属外国語学校として復活し、明治32年、3年制の東京外国語学校として分離独立しました。その後、昭和19年に3年制の東京外事専門学校に改組され、昭和24年に4年制の東京外国語大学となり、平成16年国立大学法人に。同24年、外国語学部を改組して言語文化学部と国際社会学部、2学部、同31年には国際日本学部を新設し3学部となりました。



Future 未来へ

文化の懸け橋となる人材を育てる

東京外国語大学は、世界の多様性の源である、言語・文化・社会を教育・研究しています。そしてその知識を生かし、世界の言語、文化、民族、宗教、性別などの差異の間で仲介者となる人材の養成に力を注いできました。今後、世界の多様化により、調整や仲介の必要性がますます大きくなっていきます。そこで本学の学生は、高度な言語運用能力や専門知識を身に付け、新たな価値観の創成に寄与する国際教養人、または国際職業人など、多様性を力に変えていく「多文化共生」に貢献する人材となることを目指します。



私の学食 オススメメニュー

大学会館2階の学生食堂さぼおの「辛ブタ味噌丼」(378円)です。ビュッフェ形式で野菜や汁物も追加でき、一人暮らしの自分にとって心強い味方です。

富山 瑛史くん



本日の講義
4.25(木)
at 府中キャンパス
12:40~14:10

協働実践科目 多文化コラボレーション1

この講義で
学ぶこと

母語や文化的背景が異なる日本人学生と外国人学生でチームを編成。東京外国語大学がある府中市周辺の魅力をテーマに、企画、現地調査、専門家への取材を行い、世界に発信するテレビ番組制作を通じて協働作業の意義を学ぶ。

外国人学生たちと英語で議論するのも楽しみます

「多文化コラボレーション1」はグループワークを主体とした国際日本学部1年生の必修科目。受講生82人のうち、5割強が外国人留学生というのも東京外国語大学ならではだ。

出身国も韓国、インドネシア、アメリカ、オーストラリア、スロバキア、ハンガリーなど14カ国に及ぶ。留学生は日本語の習熟度に差があるので、日本語と英語で講義が行われる。

大津先生、幸松先生、2人の先生が

世界各国の学生たちと作ると どんなテレビ番組ができてあがる?!

Q 今日講義は、10年後の社会でどのように役立っていますか？

A 日本が多文化共生社会に移行する中で、どの言語でどのように会話すればよいのか。その予行演習になるでしょう(大津)。番組制作は、いかにチームで協働するか、いい経験になるはず(幸松)。

Profile

大津友美：東京外国語大学大学院国際日本学研究院准教授。2006年名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻にて博士(文学)取得。専門は日本語の談話分析、日本語教育。



幸松英恵：東京外国語大学世界言語社会教育センター特任講師。2012年東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻にて博士(学術)取得。専門は日本語学。



8つのグループに分かれた学生たちを指導する。

「この講義は、外語大の地元の魅力を発信する番組制作を通じ、多文化協働の共生力を養える国際日本学部ならではの実践的な科目です」と大津先生は講義の魅力語る。

テレビ番組を作るのに大切なのはチームワーク

グループは、伝統文化、芸術、観光、スポーツ、工業、歴史、地域振興、農業という8つのテーマに分かれ番組制作する。

この日はすでに4回目。前回、テレビ朝日の出前授業で来校した講師から番組制作について学び、グループを統括するプロデューサーチームと実際に番組を作るディレクターチームの役割を決め、どんな番組を作り、スポンサーをどこにするか議論が白熱した。東京競馬場を取り上げる観光のグループは、「スポンサーはどこがいいかな?」「ターゲットはF1・M1層(20〜34歳女性・男性)だね。だから若者が入りやすいお店を調べてみよう」「ターゲットが似ているCMもあるから、違いをどう出そうか」と話は尽きない。調布飛行場と外語大周辺の戦跡を扱う歴史グループでは外国人学生がリーダーシップを取り、英語主体でディスカッションを進めて盛り上がる。

「語学の習熟度に合わせて、どの言語を選択すれば、スムーズに役割分担や企画が進むか学生たちで考えます。歴史グループでは留学生が主体となっていますね」と大津先生は言語の選択の重要性を強調する。

今後は7月下旬の番組制作発表会に向け、企画書の発表会、台本の作成、取材、インタビュー、撮影、編集と初め

記者の目 東京外国語大学は こんな大学



国際日本学部の学生は単に語学を学ぶのではなく、語学をツールとして日本のことを考えたい、伝えたいという意識が高いようです。キャンパスも門がなく、開放的でオープンな環境の中で日本人学生と外国人学生が共生して学んでいます。



て体験することばかりが続く。「これからは、一人ひとりが自分の能力をどう生かすかが鍵。ストーリー作りのセンスがある学生や撮影や編集が得意な学生。ブラジル人学生がいるからポルトガル語の字幕も入れようとか。チームの皆でアイデアを出しあい、協働で番組というプロダクトを作り上げ、課題を解決する難しさと喜びを経験してほしい」と幸松先生は話す。

完成した番組は、テレビ朝日の社員が評価。できあがった番組は外語大のYouTubeチャンネルなどで公開予定。今から番組制作発表会が、楽しみだ。

※講義は2019年に取材したものです。